

下佐野遺跡調査報告

— 堀地所・有限会社広瀬エステート企画による宅地造成工事に伴う平成18年度の調査 —

2007年11月

高岡市教育委員会

序

この度報告いたしますのは、平成18年度に宅地造成に伴い実施した下佐野遺跡での調査の報告です。

「下佐野遺跡」は、高岡市街地の南西郊、佐野地区一帯にあります。当地区は庄川が形成した扇状地の末端に当たる地域です。周辺には、東木津遺跡、木津神社遺跡、泉ヶ丘遺跡、石名瀬A遺跡など数々の遺跡が所在しています。

当遺跡は、昭和38年にその存在が確認され、翌年の昭和39年に区画整理事業が実施された時に多量の遺物が出土しました。弥生時代終末期の良好な土器類が採集され、当該期の一つの基準を示すものとして評価されました。

その後、開発工事にかかる調査が数回実施され、奈良平安時代や中世の遺構・遺物も確認され、長期にわたって営まれた集落跡であることが判明しています。

今回の調査では、奈良平安時代の遺構・遺物が中心で、当遺跡の一端が解明されました。

最後になりましたが、発掘調査にご協力いただきました、関係各位、地元の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成19年11月

高岡市教育委員会
教育長 村井 和

例　　言

1. 本書は、堀地所・有限会社広瀬エステート企画による宅地造成工事に伴う、下佐野遺跡の発掘調査報告書である。
2. 当調査は、堀地所・有限会社広瀬エステート企画から委託を受け、高岡市教育委員会の監理・監督のもと、有限会社毛野考古学研究所が実施した。
3. 現地調査は平成18年6月14日～同年7月7日である。
4. 本書には、株式会社オダケホームによる宅地造成工事に伴う、越中国府関連遺跡の発掘調査の報告も収録した。
5. 調査関係者は以下のとおりである。
堀地所－堀部大
有限会社広瀬エステート企画－代表取締役：広瀬哲也
高岡市教育委員会文化財課
文化財課長： 笹島千恵子
〔埋蔵文化財担当〕
主幹：本林弘吉
副主幹：山口辰一
主査：荒井 隆
有限会社毛野考古学研究所
所長：長井正欣
調査員：常深 尚
調査員：小出拓磨
6. 現地調査は、常深・小出が担当した。
7. 現地調査及び報告書作成において、以下の各氏より御教示、御援助を得た。
(順不同・敬称略)
伊藤順一、江藤敦、岡田一広、桶谷潤、河内公夫、後藤浩之
澤田雅志、植田泰之、宮脇満
8. 本書の執筆は、常深が担当した。ただし調査に至る経緯については山口による。

凡　　例

1. 本書で示す方位は、座標北である。水平基準は海拔標高（m）である。
2. 本書における遺構記号は次のとおりである。
S I - 壁穴建物址、S B - 掘立柱建物址、S A - 標址
S K - 土坑、S D - 潟、S P - ピット
3. 図面中のスクリーントーンは以下のことを表す。

遺構 柱痕 粘土 焼土

遺物 油煙

調査参加者名簿

発掘 安藤誠吾、池田慎玄、大橋欣次、河原康弘、小板達郎、小林央、沢田和明、清水不二雄
新章秀次、高岡誠一、中山賢富、村上裕也、山崎一男、山城一夫、山田誠晃

整理 安藤誠吾、大庭麻起子、釜谷香織、上坂哲也、小島あゆみ、小島智子、小林央
菅谷万須美、武内麻美、竹部光希、長森久代、蓮野典子、増川吏英子、宮野美重子

高岡市埋蔵文化財調査報告第16冊

下佐野遺跡調査報告

目 次

序
例 言
凡 例
目 次

第1章 序 説	1
1. 遺跡概観	1
2. 調査に至る経緯	2
3. 調査の経過	3
4. 調査の概要	4
第2章 遺 構	5
1. 捩立柱建物址	5
2. 橋址	6
3. 土坑	6
4. 漢	7
5. ピット	8
第3章 遺 物	9
1. 土器類	9
2. 油煙土器	10
3. 錫冶関連遺物	10
4. 木製品	11
第4章 結 語	12
附編 越中国府関連遺跡オダケホーム2地区	14

図面目次

- 図面01～07 遺構実測図
図面08 遺物実測図

図版目次

- 図版01～07 遺構写真
図版08 遺物写真

挿図目次

第1図	遺跡位置図（1／2万5千）	1
第2図	調査地区位置図（1／2500）	2
第3図	下佐野遺跡、既往の調査地区（1／2000）	3
第4図	試掘調査地区全景（南東）	4
第5図	第1試掘調査地区 S P08柱材検出状態	4
第6図	S B01概略図（1／200）	5
第7図	S B02概略図（1／200）	6
第8図	S A01・02概略図（1／200）	6
第9図	遺物出土位置図（1／400）	9
第10図	概址S A01-P1出土遺物（1／3）	10
第11図	掘立柱建物址S B01-a d04出土遺物（1／2）	10
第12図	溝S D01漆器碗出土状態	11
第13図	掘立柱建物址の方位と規模（1／200）	12
第14図	調査地区における遺構の変遷（1／400）	13
第15図	越中国府関連道路オダケホーム2地区、全体図（1／400）	15
第16図	越中岡府関連遺跡オダケホーム2地区、本調査地区全体図（1／100）	15

挿表目次

- 第1表 土器類観察表 11

第1章 序 説

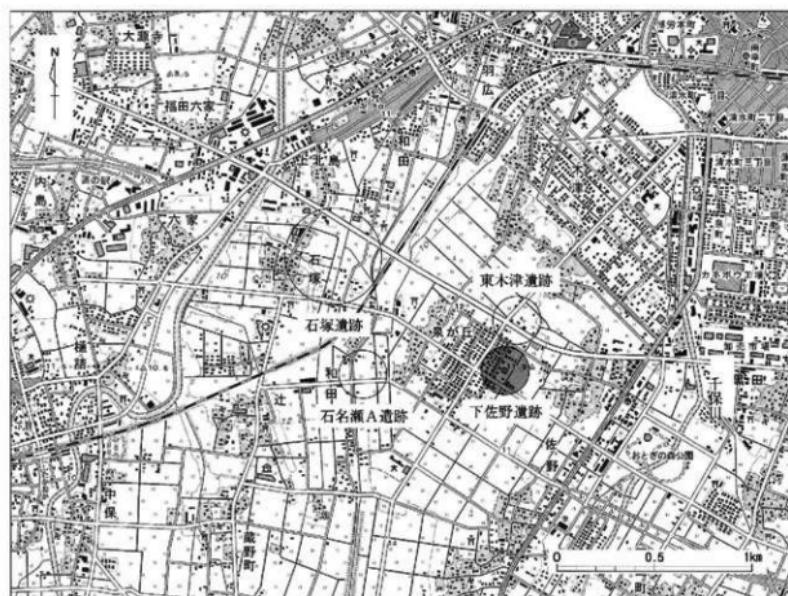
1. 遺跡概観

下佐野遺跡は、高岡市南西部に括る佐野台地北東部に立地している。佐野台地は、庄川によって形成された扇状地が、河川の浸食により段丘化したものである。旧庄川（現在の千保川）の流路は、本遺跡の南東800m付近を北流している。遺跡周辺の標高は11m前後である。

本遺跡一帯は、以前より弥生時代終末期から古墳時代前期の土器が採集され、出土土器は当該期の基準資料となってきた。既往の調査地区（90'井波地区、90'横田地区）においても、古墳時代前期初頭の竪穴住居址が調査されている（第3図）。また、本遺跡西方の石名瀬A遺跡では、弥生時代中期の方形周溝墓群が調査されている。弥生時代中期の遺跡として著名な石塚遺跡は、低地部を挟んで北西約1kmに位置し、弥生時代中期の方形周溝墓、古墳時代前期の前方後方墳・方墳などが調査されている。

本遺跡北方に隣接する東木津遺跡は、古代の掘立柱建物群、道路址、多量の土器を伴う祭祀場が調査され、官衙的集落と位置づけられている。本遺跡で検出された古代の遺構は、この東木津遺跡の集落跡に包括されるものと考えられる。

このほか、既往の調査地区においては、中世の井戸址や溝が検出されている。



第1図 遺跡位置図（1／2万5千）

2. 調査に至る経緯

平成18年1月15日、堀地所・有限会社広瀬エステート企画より、文化財保護法第93条に基づく開発工事の届出があった。泉ヶ丘団地の東側での宅地造成工事で、中央に幅員6mの道路を敷設し、この周囲に8区画の分譲宅地を造成する内容であった。当該地は工場の跡地で、現在の道路面まで以前に盛土・造成が行われていた所である。

埋蔵文化財包蔵地としては、この泉ヶ丘団地の東側までを下佐野遺跡としているので、当遺跡の西端部に該当する。ただし、泉ヶ丘団地が昭和38年に造成されたので、遺物の表面採集を主体とした埋蔵文化財包蔵地の範囲設定については、この団地内は分明にできないことから、下佐野遺跡の西側範囲を当団地東側までとしているのである。

試掘調査は、平成18年4月24日から5月9日まで実施した。幅2mの試掘坑を2条設定した159m²の試掘調査である。この結果、開発予定地全体に遺構が残っていることが確実な内容であった。

高岡市教育委員会文化財課と堀地所・有限会社広瀬エステート企画で協議をし、工事により破壊される道路部分360m²を本調査することになった。この本調査は、高岡市教育委員会の監理・監督により、有限会社毛野考古学研究所が調査実務を行い、調査経費は、堀地所・有限会社広瀬エステート企画が負担することになった。



第2図 調査地区位置図 (1 / 2,500)

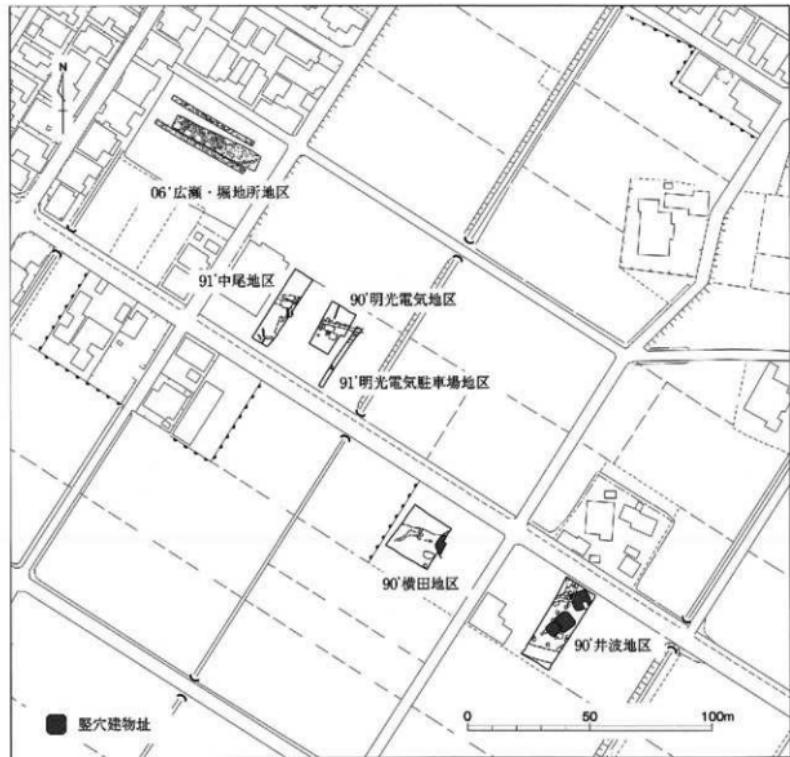
3. 調査の経過

平成18年4月から5月にかけて実施された試掘調査に基づき、平成18年6月14日より本調査地区の表土及び現代の盛土層の重機掘削を開始した。基盤層の上には奈良平安時代の遺物包含層が確認された。

6月15日から遺物包含層の掘り下げを開始し、遺物の取り上げと遺構の検出作業を進めた。これにより多数の柱穴と土坑、溝を検出した。

6月20日からは遺構の掘り下げに着手し、柱穴の新旧や柱痕の検出などに努めた。6月21日には溝S D01から漆器椀が出土した。6月26日には掘立柱建物址 S B01を確認し、周囲に雨落ち溝が廻る構造が判明した。6月30日には横幅 S A01のピット内から油煙の付着した須恵器杯が出土した。

7月5日に遺構の掘り下げを完了し、遺跡全景写真の撮影を行った。7月7日に現場作業を終了した。



第3図 下佐野遺跡、既往の調査地区（1／2,000）

4. 調査の概要

調査面積

本調査地区250m²、第1試掘調査地区75m²、第2試掘調査地区85m²

基本層序

基本層序は、第I層：表土、第II層：盛土層（灰白色砂質土による現代の盛土層）、第III層：奈良平安時代の遺物包含層（黒褐色土層）、第IV層：基盤層（黄褐色砂質土層）、第V層：基盤層（白色粘質土層）となる。

検出遺構

検出遺構は次の通りである。時期は平安時代前期～中近世である。

〔本調査地区〕

掘立柱建物址2棟（S B01～02）

柵址2条（S A01～02）

土坑4基（S K01～04）

溝19条（S D01～19）

ピット282基（主要なS P01～08のみ遺構番号を付した）

〔試掘調査地区〕

土坑11基

溝28条

ピット69基

出土遺物

出土遺物は次の通りである。時期は平安時代前期が中心である。

土器類：土師器（皿・杯・鉢・壺・鍋）、須恵器（杯・蓋・甕・壺・瓶）

八尾（甕）、瀬戸美濃（皿）、越中瀬戸（碗）

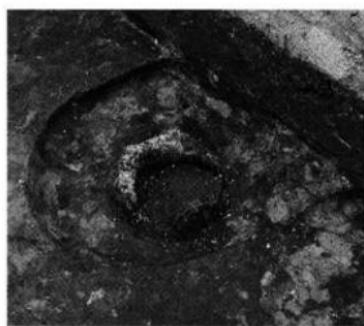
土製品：輪羽口

木製品：漆器（椀）

その他：鉄滓



第4図 試掘調査地区全景（南東）



第5図 第1試掘調査地区 S P08柱材検出状態

第2章 遺構

1. 挖立柱建物址

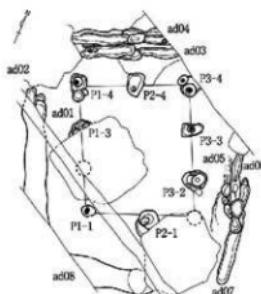
2棟の掘立柱建物址が検出された。調査地区の北西部に位置するSB01は2×3間と想定され、一部の柱穴で建て替えや抜き取り痕が確認された。SB01は雨落ち溝とみられる溝(a d01~08)に囲まれるが、この溝は建物址の建て替えに対応するよう多重に検出されている。SB01の南東に位置するSB02は、SD02、SD15・16に区画された空間内に存在する。このほかSB01の東側から第1試掘調査地区中央部にかけて、多数の柱穴が集中して検出されている。なかにはSB01の柱穴に匹敵する形状・規模を有するもの(S P01~03、SP05~07)も含まれることから、異なる建物址の存在は十分に考えられる。

掘立柱建物址SB01(図面02・03)

2×3間の偶柱建物である。桁行の方位はN-25°-Wを指す。規模は桁行5.30m、梁行4.60m、平面積は24.38m²である。柱穴は桁行方向に長いやや不整形な長方形を呈し、その規模はP1-4で80cm×66cm、P2-4で95cm×68cm、P3-2で102cm×82cmであった。深さは概ね25cm~40cmを測り、白色粘質土(第V層)まで掘り込まれている。底面標高は11.10m~11.30mである。P1-4・2-1・2-4・3-4では柱の建て替えが認められる。その柱穴規模はP1-4で40cm×38cm、P2-1で80cm×76cm、P3-4で54cm×54cmである。柱痕はP1-4・P3-4で径16cm~18cmの不整円形であった。P2-1・3-2では柱の抜き取り痕が確認された。柱間距離は桁行方向で1.80m~2.10m、梁行方向で2.25m~2.40mを測る。掘り方の覆土には第V層が多用されている。遺物はP2-4から須恵器杯・蓋(1018)、P3-4から須恵器蓋(1014)・壺瓶(1021)が出土しているほかは、微量である。なおSB01はSD01~05に切られている。

SB01に伴う雨落ち溝ad01~08(図面02・03)

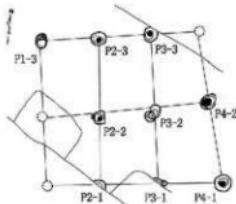
掘立柱建物址SB01の周囲には、雨落ち溝とみられる溝が認める。西側のad01・02、北側のad03・04、東側のad05~07、南側のad08である。溝は全周せず、北西角と南東角は途切れるとみられる。ad01・02、ad03・04、ad05~07はそれぞれ1条の溝が掘り直されたものである。各溝群ともに内側の溝が古いため、雨落ち溝が外側へ移動していくことが分かる。ad03・04では、溝は幅30cm~64cm、深さ20cm~45cmを測り、断面は薬研状に近い形状を示す。SB01側柱から溝への中心距離は、古い段階で1.30m~1.50m、新しい段階で2.00mである。ad03・04では、SB01の柱穴P2-4とP3-4の柱間に対応する東半が浅くなっている。またad03東半部は、掘り直しに際し白色粘質土(第V層)で埋められているが、これは他の溝ではみられない。さらにad03・04東半部周辺は地山がわずかに黒く変色していることから、建物の出入り口等の何らかの機能が考えられる。遺物はad02で須恵器杯、ad03・04で土師器甕・鍋(1004・1005)、須恵器杯(1010・1012)・蓋(1016・1019)、鶴羽口(2001)、ad05で須恵器杯(1006)、ad06で須恵器杯(1008)・蓋(1015)が出土している。なおad03がSP04を、ad06がSA01のP1を切っている。ad07はSD07に切られる。



第6図 SB01概略図(1/200)

掘立柱建物址 S B02 (図面04)

2×3間の總柱建物と推測される。N-83°-Eを主軸とするが、柱筋はやや不揃いである。規模は桁行6.50m、梁行6.10m、平面積は39.65m²である。桁間寸法は2.10m~2.60m、梁間寸法は2.80m~3.40mを測る。柱穴は円形を基調とし、径38cm~54cm、深さ26cm~38cmである。5基の柱穴で柱痕が検出され、柱径は16cm~28cmを測る。遺物は古代の土師器や須恵器が少量出土している。なおS B02の西2.5mにはS D02が、南5.5mにはS D15・16が、建物と軸を描えて走向しており、両者の同時存在の可能性が考えられる。



第7図 S B02 構造図 (1/200)

2. 横査

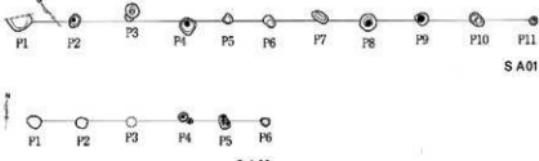
横査は2条検出されている。

横査 S A01 (図面05)

調査地区の中央で検出された横査である。N-50°-Wの方位に11基のビットが並び、全長は21.2mを測る。P3とP4の2基のみ30cmほど北東へずれる。ビットの間隔は1.80m~2.40mを測る。ビットの形状は径34cm~70cmの円形ないし梢円形であるが、P1は90cm四方の隅丸方形を呈する。ビットの深さは22cm~38cm、底面標高は概ね11.26mに揃っている。柱痕はP2、P4、P8、P9、P11で検出され、径10cm~20cmの円形を呈する。遺物はP1で油壺土器(1009)が出土したほか、少量の土師器・須恵器が出土した。S B01の雨落ち溝a d 06にP1が切られるため、S B01より古い横査とみられる。

横査 S A02 (図面04)

調査地区の南東部、S B02の南5.5mに位置する。N-88°-Eの方位に6基のビットが並ぶと推測され、全長9.4mを測る。ビットの間隔は1.7m~1.9mである。ビット形状は径34cm~56cmの円形で、深さ16cm~24cmを測る。



第8図 S A01・02構造図 (1/200)

3. 土坑

土坑は本調査地区内に4基検出されている。

土坑 S K01 (図面05)

S D15・16に切られる土坑である。東西に長い梢円形を呈し、長軸130cm、短軸88cmを測る。断面は逆台形を呈し、深さ37cmである。遺物は土師器壺(1002)のほか、須恵器杯・蓋・甕が少量出土している。

土坑 S K02 (図面05)

S K03の北東側に隣接する。東西に長い隅丸長方形を呈し、長軸134cm、短軸72cm、深さ46cmを測る。長

軸方位はN-75°-Eである。遺物は土師器壺、須恵器杯・蓋・壺が少量出土している。

土坑SK03（図面05）

S D13の西側に位置する。南北116cm、東西123cmの円形を呈する。深さ22cmの底面南寄りには、南北70cm、東西40cmの横円形のピット（S A01-P7）が重複し、SK02より古い。東壁沿いに小ピットが3基存在する。遺物は土師器壺（1003）のほか、須恵器蓋・壺が少量出土している。

土坑SK04（図面06）

S D13の南側に位置する。東西に長い隅丸長方形を呈し、東端はピットに切られる。長軸推定140cm、短軸69cmを測る。長軸方位はN-80°-Eである。深さ25cmの底面は幅20cmの溝状を呈し、深さ10cmの小ピット2基が長軸上に並ぶ。遺物は土師器壺、須恵器杯が少量出土している。

4. 溝（図面07）

S B01の雨落ち溝（a d01~08）を除き、19条の溝が検出されている。

溝SD01

S B01付近を南西から北東方向へ蛇行する溝である。S B01、SD02~05と重複し、いずれよりも新しい。幅1.34m~1.70m、深さ16cmを測り、断面は緩やかな弧状を呈する。出土遺物は古代の土師器壺、須恵器杯・壺、中世の土師器皿、近世の越中瀬戸焼、漆器柄などが少量である。

溝SD02

S B01付近を南北に走向する。方位はN-9°-Wを指し、残存長は17.5mである。幅78cm、深さ15cmを測り、断面は弧状を呈する。SD03~05を切り、SD01に切られる。出土遺物は土師器壺、須恵器杯・壺が少量ある。

溝SD03・05

S B01付近を南西から北東へ直線的に走向する。方位はN-23°-Eを指し、残存長は14mである。掘り直しが認められ、SD05が新しい。SD03は幅1.00m、深さ23cm、SD05は幅1.22m、深さ12cmを測る。断面の形状は弧状である。S B01を切り、SD01・02に切られる。またSD03埋没後のSD05掘削以前には、SD04が掘削されている。出土遺物は土師器壺、須恵器杯・蓋・壺が少量である。

溝SD04

SD01底面で検出された溝である。SD01と同様に南西から北東へ蛇行する。幅60cm、深さはSD01底面から10cmを測り、断面は半円形である。出土遺物は須恵器杯・蓋・壺、八尾壺、瀬戸美濃皿が少量である。

溝SD06

S B01付近に位置する。方位はN-71°-Eを指し、残存長は2.80mである。幅28cm、深さ5cmを測り、断面は逆台形を呈する。S B01のP2-4を切る。遺物は土師器壺が少量出土した。

溝SD07

調査地区の中央部に位置する。方位はN-19°-Wを指し、残存長は3.8mである。幅48cm、深さ10cmを測り、断面は逆台形を呈する。S B01雨落ち溝a d07を切る。遺物は土師器壺、須恵器杯が少量あり、溝の北端では須恵器蓋（1017）の上に口縁部を打ち欠いた須恵器杯が立った状態で出土した（図版06-2）。

溝SD08

調査地区中央部に位置する。方位はN-13°-Wを指し、残存長は6.8mである。幅26cm、深さ5cmを測り、断面は逆台形を呈する。4.2m西に位置するSD07とは、方位や長さ、わずかに蛇行する平面形が酷似しており、同時存在の可能性が指摘される。出土遺物は土師器壺、須恵器壺が少量である。

溝 S D09

S D08の東50cmに位置する短小な溝である。方位はN - 13° - Wを指し、残存長は1.12mである。幅23cm、深さ10cmを測り、断面形はU字状を呈する。出土遺物は土師器甕、須恵器甕が少量である。

溝 S D10

S D11の西50cmに位置する。方位はN - 36° - Eを指し、残存長は2.7mである。幅47cm、深さ15cmを測り、断面は逆台形を呈する。出土遺物は土師器甕が少量である。

溝 S D11

調査地区中央部に位置する。方位はN - 21° - Eを指し、残存長は1.12mである。幅は36cmである。底面は凹凸があり、深さは最大で26cmを測る。断面形はU字状を呈する。出土遺物はない。

溝 S D12

調査地区中央に位置する。S A01の1m南西側を並走し、S A01に伴う可能性がある。方位はN - 51° - Wを指し、残存長は3.1mである。幅21cm、深さ4cmを測る。出土遺物はない。

溝 S D13

調査地区東部に位置する。方位はN - 87° - Eを指し、残存長は3.98mである。幅20cm～30cm、深さ16cmの溝が2度掘り直されている。断面は逆台形を呈する。これらの特徴はS B01の雨落ち溝に類似している。出土遺物は土師器甕、須恵器蓋が少量である。

溝 S D14

調査地区東部に位置する。方位はN - 33° - Eを指し、残存長は5.5mである。幅55cm、深さ7cmを測り、断面は逆台形を呈する。重複する全てのピットより新しい。出土遺物はない。

溝 S D15・16

S D15は調査地区東部を西から東へ走向する溝である。方位はN - 87° - Eを指し、残存長は14.5mである。幅40cm、深さ9cmを測り、断面は逆台形を呈する。S D16はS D15の掘り直しと考えられる。幅24cm、深さ12cmを測り、断面はU字状を呈する。S D16はS D17、S K01と重複し、いずれよりも新しい。出土遺物はS D15で土師器甕、須恵器甕が少量、S D16で土師器甕、須恵器杯・甕が少量である。

溝 S D17・19

S D17は調査地区東部を西から東へ走向する溝である。方位はN - 75° - Eを指し、残存長は7.5mである。S D16より古い。幅38cm、深さ5cmを測り、断面は逆台形を呈する。第2試掘調査地区的S D19が2.5m南を並走することが注意される。出土遺物は土師器甕、須恵器甕が少量である。

溝 S D18

S D03・05に切られる溝である。方位はN - 72° - Eを指し、残存長は90cmである。幅54cm、深さ6cmを測り、断面は逆台形を呈する。出土遺物は須恵器甕が少量である。

5. ピット（図面06）

試掘調査地区をあわせて351基のピットが検出された。比較的大型のピットはS B01とS D08に挟まれた東西幅5mの区域に多く、隅丸方形の平面形を有するS P01・03などは、掘立柱建物址の柱穴になる可能性が高い。第1試掘調査地区的S P08では径22cmの柱材が遺存していた。S P04からは土師器鉢（1001）が出土した。小型のピットはS D02とS D15・16に囲まれる区域内に多くみられる。

第3章 遺 物

1. 土器類

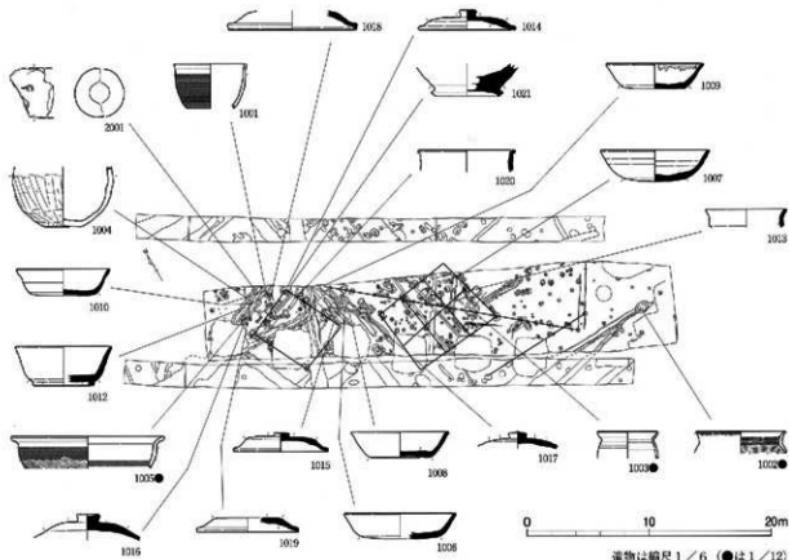
土器器（図面08）

鉢1点（1001）、壺3点（1002～1004）、鍋1点（1005）を図示した。1001は頭部のくびれが小さく、口縁端部を面取りする。1002はS K01で出土した古墳時代の壺である。口縁部外面は刷毛目後に横ナデ、内面は刷毛目を施す。古墳時代の壺はSD10などでも出土している。1003・1004は小型の壺である。1004の胴中央部外面には煤が付着している。1005の鍋は内面に煤が付着する。

須恵器（図面08）

杯8点、蓋6点、壺瓶2点を図示した。

杯は、高台の付かない杯Aと高台が付く杯Bがある。杯Aは1006～1011である。全て底部ヘラ切り無調整である。1008は内面にナデがみられる。1006・1007は酸化炎焼成で、1007は胎土が粗く、雑な成形である。1008・1011は灰色、1009・1010は灰白色の胎土である。杯Bの1012は、発泡や亀裂により器面が荒れている。1013は高台付きの矮杯で、口縁部外面に自然釉がかかる。このほか図示していないが、SB01雨落ち溝a-d 03から杯Aの墨書き土器が出土している。底部小片の外面にわずかに墨書きがみられるが、文字の判読はできない。1014～1019は杯Bに組み合うとされる杯蓋である。口縁端部が下方へ短く折れ、天井部に扁平な宝珠形つまみが付く形態である。天井部切り離しはヘラ切りが基本で、天井部にヘラ削りがみられるのは1015である。



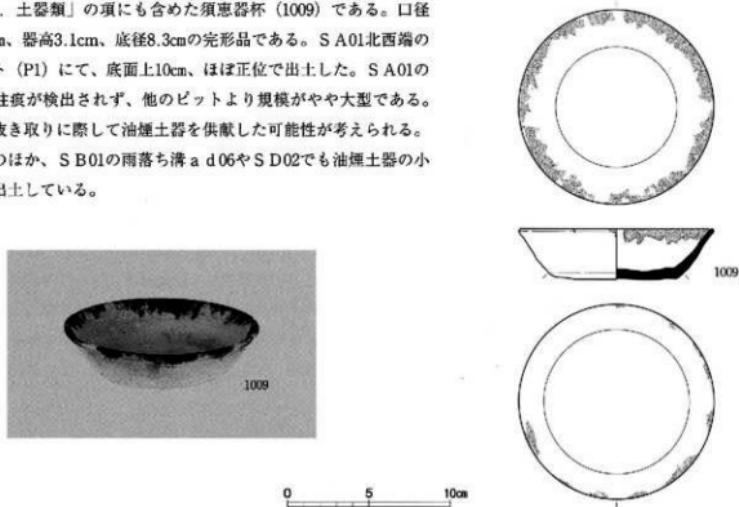
第9図 遺物出土位置図 (1/400)

る。1014・1016・1019は天井部内面をナデ調整する。壺類は1020・1021である。1020は短頸壺の口頭部とみられ、内外面に自然釉がかかる。1021は高台付きの壺類底部である。

2. 油煙土器

「1. 土器類」の項にも含めた須恵器杯（1009）である。口径11.8cm、器高3.1cm、底径8.3cmの完形品である。S A01北西端のピット（P1）にて、底面上10cm、ほぼ正位で出土した。S A01のP1は柱痕が検出されず、他のピットより規模がやや大型である。柱の抜き取りに際して油煙土器を供献した可能性が考えられる。

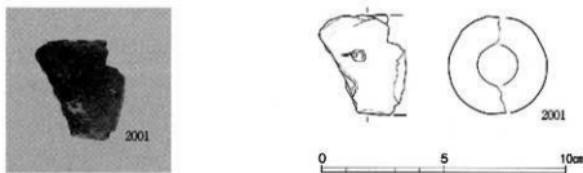
このほか、S B01の雨落ち溝a d 06やS D02でも油煙土器の小片が出土している。



第10図 棚址 S A01-P1出土遺物（1／3）

3. 鍛冶関連遺物

S B01の雨落ち溝a d 04で焼土塊とともに出土した轆羽口（2001）である。外形4.0cm、内径1.7cm、残存長3.5cmである。端部は溶解し、ガラス質化している。轆羽口は雨落ち溝a d 07でも小片が出土している。このほか、S B01のP3-2から鉄滓1点が出土しており、集落内に鍛冶遺構が想定される。



第11図 摶立柱建物址 S B01-a d 04出土遺物（1／2）

4. 木製品

S D01で漆器が出土した。腐朽していたため復元はできなかったが、体部内面の赤漆が遺存していた。口径12cm、器高5cm程度の碗と推定される。

このほか、S D01・02からは炭化した自然木が、S B01の雨落ち溝 ad03やS P02からは炭化した板状片が少量出土している。



第12図 溝 S D01漆器碗出土状態

番号	表面	種類	口径	特徴	叢	出土位置
1001	08	土師器・鉢	16.8	深鉢。体部外面はカキ目。		S P04
1002	08	土師器・甕	21.8	口縁部は、く字状に折れる。		S K01
1003	08	土師器・甕	14.8	口縁部は内窪して折がる。		S A01-P7
1004	08	土師器・甕	—	球形の胴部、外側はヘラ削り。		S B01-ad04
1005	08	土師器・鍋	37.0	体中央部内面と体上部外面はカキ目。		S B01-ad03
1006	08	須恵器・杯A	13.6	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。		S B01-ad05
1007	08	須恵器・杯A	13.2	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。		S D10
1008	08	須恵器・杯A	11.9	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。		S B01-ad06
1009	08	須恵器・杯A	11.8	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。油煙付き。		S A01-P1
1010	08	須恵器・杯A	11.3	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。		S B01-ad03
1011	08	須恵器・杯A	9.8	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。		第Ⅲ層
1012	08	須恵器・杯B	11.6	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。		S B01-ad04
1013	08	須恵器・後杯	9.7	外面に後が付く。高台付きの杯と想定される。		S K02
1014	08	須恵器・杯B蓋	11.6	天井部はヘラ切りで、宝珠形つまみが付く。		S B01 P3-4
1015	08	須恵器・杯B蓋	11.4	天井部はヘラ削りで、宝珠形つまみが付く。		S B01-06
1016	08	須恵器・杯B蓋	—	天井部はヘラ切りで、宝珠形つまみが付く。		S B01-03
1017	08	須恵器・杯B蓋	—	天井部はヘラ切りで、宝珠形つまみが付く。		S D07
1018	08	須恵器・杯B蓋	15.6	口縁部は下方へ短く折れる。		S B01 P2-4
1019	08	須恵器・杯B蓋	12.3	口縁部は下方へ短く折れる。		S B01-ad03
1020	08	須恵器・壺蓋	11.5	短頸壺の口縁部。		S D04
1021	08	須恵器・壺瓶	—	高台付きの底部。		S B01 P3-4

第1表 土器類観察表

第4章 結語

下佐野遺跡は弥生時代後期から古墳時代前期の遺跡として知られるが、今回の調査地区では、古代から中近世にかけての遺構・遺物が検出された。遺構の切り合いや遺物から、第14図に示した6期にわたる遺構の変遷が想定される。主要な遺構は古代の掘立柱建物址 S B01、中世の掘立柱建物址 S B02である。

古代の遺構は柵址 S A01、雨落ち溝を伴う掘立柱建物址 S B01である。S A01は建物址を伴わず、単独で検出された柵址である。西端のP1に油煙土器が供獻されていた。そのP1を切って S B01の東側雨落ち溝が掘削されるが、出土遺物からは S A01と S B01との明確な時期差は見い出せず、9世紀前半に収まる。S B01は、東木津遺跡で検出された集落から約200m南西の近距離に位置している。さらに東木津遺跡の道路址 S F02が、本遺跡の東100m付近を縦断すると想定されることなどから、本遺跡 S B01と東木津遺跡の集落との位置的な関連性は強いといえる。関連性は建物の方位や規模からも窺われる。東木津遺跡の建物はⅠ期（8世紀後半）、Ⅱ期（8世紀後葉～9世紀前葉）、Ⅲ期（9世紀前半）に分類されているが、このうち桁行3間の建物は、第13図に示したように、時期が下るにつれ、棟方位の北への変移と桁行長の縮小傾向が指摘できる。Ⅲ期に相当する S B01もこの動向に同調しているとみられるのである。東木津遺跡の集落はⅡ期に発展し、Ⅲ期には衰退してくるが、掘立柱建物址1棟のみの下佐野遺跡では、集落の消長はまだ明らかでなく、東木津遺跡を含めた今後の調査を待たざるを得ない状況である。

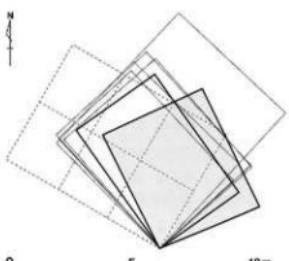
S B01以後、中世後半まで遺構・遺物は途絶える。中世後半にはまず、S D03→04→05の順に溝が掘削される。東木津遺跡の所在する北東方向へ直線的に延びる灌漑用水路とみられ、S D04からわずかに八尾壺、瀬戸内美濃皿が出土している。その後、S D05を切るS D02が真北を意識して掘削され、そのS D02に直交すると推定されるS D15・16とともに、一定の区画を作り出している。これらの溝からは時期を示す遺物が出土していないが、区画溝の内外でピットの多寡が顕著であるため、同時に存在した区画溝である可能性が高い。区画の南隅部には、溝と方位を揃えた掘立柱建物址 S B02、柵址 S A02が存在する。さらにS B02の北西方向、第1試掘調査地区中央部周辺には軸を同じくするピット列があり、更なる建物が想定される。このような状況から、本遺跡以北には区画溝に囲まれた中世後期の遺構群が存在することが考えられる。既往の調査地区（90°井波地区、90°明光電気地区）では、L字に折れる溝や井戸群が検出されている。遺物は14～16世紀の幅があるが、その中心は15世紀代とされている。本遺跡は中世の遺物が少なかったため、時期の特定にまでは至っていない。

S D01は越中瀬戸を出土した近世の用水路とみられる。中世後期のS D04の流路と重なっている。

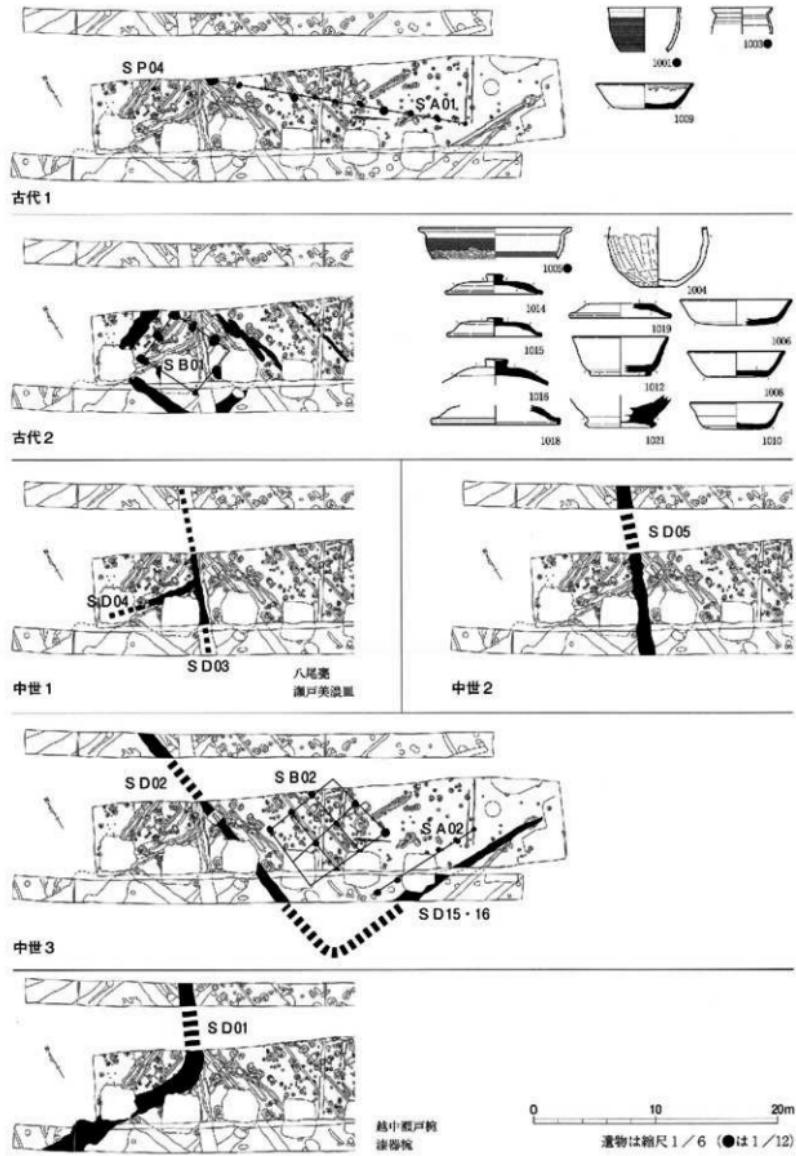
今後の調査では、古代の掘立柱建物址の有無や中世遺構の拡張が注目されるところである。また今回は遺構の検出されなかった弥生時代後期から古墳時代前期における土地利用の解明も課題である。

参考文献

- 山口 殖一 1992 「下佐野遺跡調査概報」 高岡市教育委員会
山口 殖一 1992 「市内遺跡調査概報Ⅰ」 高岡市教育委員会
山口 殖一 1993 「市内遺跡調査概報Ⅱ」 高岡市教育委員会
荒井 隆也 2001 「石塚遺跡・東木津遺跡調査報告」 高岡市教育委員会



第13図 掘立柱建物址の方位と規模
(1/200)



第14図 調査地区における造構の変遷 (1/400)

附編 越中国府関連遺跡オダケホーム2地区

1. 調査に至る経緯

平成18年3月13日、オダケホーム株式会社より、文化財保護法第93条に基づく開発工事の届出があった。当該地は高岡市古府元町478-1で、越中国府関連遺跡内であり、越中国府址推定地の勝興寺（淨土真宗本願寺派の寺院）境内の南西約1.5kmの地点である。

工事計画は、木造アパート1棟の建設と4区画の宅地分譲地を造成する内容であった。現況は畠地で、社会保険高岡病院の西側の台地である。

当該地付近では、近年、宅地造成や住宅建設が増加しており、これに対して埋蔵文化財の試掘調査を実施してきているが、ほとんどの地区が、近代に瓦粘土採集が実施されたところで、その跡に廃棄物等で埋め立てられた状態となっていた。越中国府関連遺跡として遺構・遺物の存在の可能性が高い地区であるにもかかわらず、考古学的成果を得ることができないでいた。

今回も試掘調査を実施した。4月4日に開始したところ、開発予定地全体に遺構が良好な状態で残存していることが判明した。

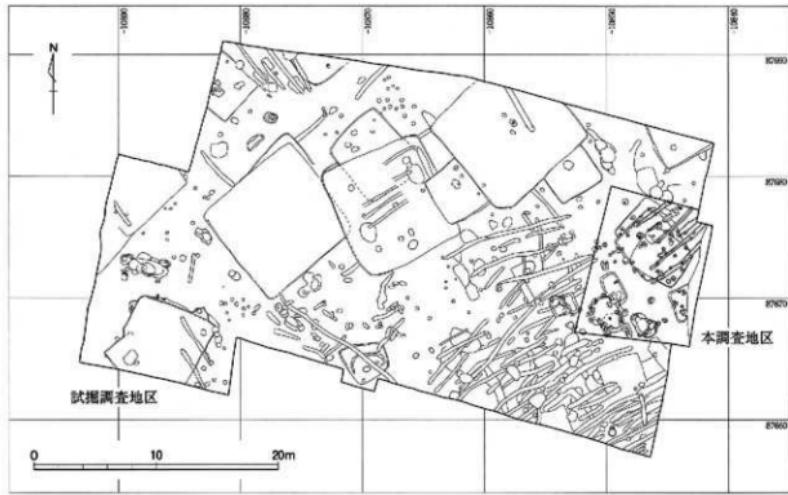
5月9日に、高岡市教育委員会文化財課とオダケホーム株式会社とで協議した。文化財課からは、試掘調査の結果を報告し、今後の取り扱いについて説明をした。また工事計画の具体的な内容を訊ねた。5月11日に再度協議して次のような結果を得た。①工法を変更して基本的に埋蔵文化財を破壊しないものとする。②一部（107m²）は掘削せざるを得ないのでこの部分は本調査を実施する。③本調査は、3者協定により民間調査機関が実施する。のことより、高岡市教育委員会の監理・監督により、有限会社毛野考古学研究所が調査実務を行い、調査経費はオダケホーム株式会社が負担することになった。この調査対象地107m²は、開発予定地の東中央を占める。現地調査は平成18年5月29日から6月14日に実施した。

本調査対象地以外の開発予定地2,020m²については、極めて重要な遺跡との観点から、試掘調査を続行することとし、遺跡の内容把握に努めた。この調査は、高岡市教育委員会の直営事業（国庫補助事業）として実施した。

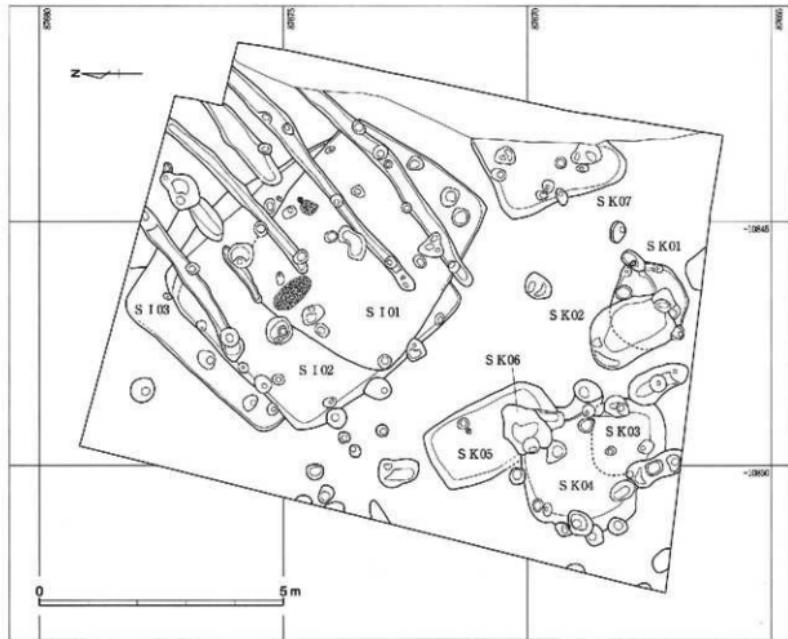
ここでは本調査107m²の報告であるが、全体の調査状況については、今後報告予定の『高岡市埋蔵文化財調査概報第66冊—市内遺跡調査概報XVII』を参照されたい。

2. 調査の概要

本調査地区において検出された遺構は、竪穴建物址3軒、土坑7基、溝6条、ピット10基である。S I 01は奈良時代、S I 02・03は古墳時代後期の竪穴建物址である。S I 01は4.38m×3.76mの隅丸長方形を呈する。北東壁中央付近に造り付け竈の痕跡とみられる焼土及び粘土塊が検出された。北西壁と南東壁中央のピット2基が柱穴と推測される。須恵器杯・壺が出土した。S I 02は4.84m×4.36mの不整形を呈し、中央北西寄りに129cm×69cmの炉址を有する。壁際には柱穴と推測される小ピット10基がみられる。土師器高杯、須恵器杯壺が出土した。S K 01～S K 07は古代の土坑である。長方形あるいは円形を呈する。土師器、須恵器、鉄滓、輪羽口、炉壁などが出土し、銀治関連遺物の廃棄土坑とみられる。溝は幅40cm～30cm、深さ25cm～20cmを測り、60cm～40cm間隔で並走する。古代の烟址と推定される。



第15図 越中国府間連遺跡オダケホーム2地区、全体図（1／400）



第16図 越中国府間連遺跡オダケホーム2地区、本調査地区全体図（1／100）

報告書抄録

ふりがな	しもさのいせきちょうさほうこく							
書名	下佐野遺跡調査報告							
原書名	掘地所・有限会社広瀬エスティート企画による宅地造成工事に伴う平成18年度の調査							
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第16冊							
編著者名	山口辰一、常保尚							
編集機関	高岡市教育委員会、有限会社毛野考古学研究所							
所在地	〒933-8601 富山県高岡市広小路7番50号 〒379-2146 福井県鶴来市公田町1002番地1							
発行年月日	西暦 2007年11月30日							
ふりがな 所収遺跡	所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号			
しもさのいせき 下佐野遺跡	富山県高岡市 佐野	016202	202151	36° 43° 41°	136° 59° 30°	060614 060707	250m ²	宅地造成
えつちゅうくふ 越中国府 かんれいんせき 関連遺跡	富山県高岡市 伏木	016202	202013	36° 47° 24°	137° 2° 41°	060404 060614	107m ²	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
下佐野遺跡	集落跡	平安時代 中世	掘立柱建物址2棟 機址2条、土坑4基 溝19条、ピット282基	土師器、須恵器、八尾 漁戸尖頭、越中漁戸 輪羽II、鉄滓、漆器碗	平安時代と中世の掘立 柱建物址の検出			
越中国府 関連遺跡	集落跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	竪穴建物址3軒 土坑7基、溝6条 ピット10基	土師器、須恵器 鉄滓、輪羽II	古墳時代後期と奈良時代の竪穴建物址の検出			

図面・図版

図面目次

- 図面01 造構実測図 調査地区全体図 (1/200)
図面02 造構実測図 掘立柱建物址 S B01実測図 (1/80)
図面03 造構実測図 掘立柱建物址 S B01土層断面図 (1/40)
図面04 造構実測図 1. 掘立柱建物址 S B02実測図 (1/80)
2. 横址 S A02実測図 (1/80)
図面05 造構実測図 1. 横址 S A01実測図 (1/100、1/40)
2. 土坑実測図 [1]: S K01~S K03 (1/40)
図面06 造構実測図 1. 土坑・ピット位置図 (1/300)
2. 土坑・ピット実測図 [2]: S K04、S P01~04 (1/40)
図面07 造構実測図 1. 溝位置図 (1/300)
2. 溝土層断面図 (1/40)
図面08 遺物実測図 土器類 土師器、須恵器 (1/3)

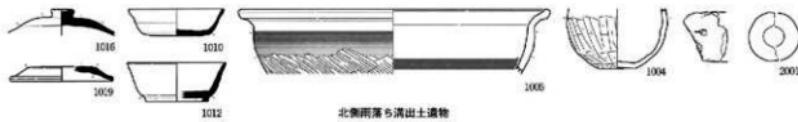
図版目次

- 図版01 造構写真 1. 調査地区全景 (西)
2. 調査地区全景 (南東)
図版02 造構写真 1. 掘立柱建物址 S B01全景 (南東)
2. 掘立柱建物址 S B01全景 (北東)
図版03 造構写真 1. 掘立柱建物址 S B01雨落ち溝 a d 03・04検出状態 (北東)
2. 掘立柱建物址 S B01雨落ち溝 a d 03・04遺物出土状態 (北東)
3. 掘立柱建物址 S B01雨落ち溝 a d 03・04全景 (北東)
図版04 造構写真 1. 調査地区中央部全景 (南)
2. 調査地区東部全景 (東)
図版05 造構写真 1. 土坑 S K01、溝 S D15~17全景 (東)
2. 溝 S D02~05全景 (北東)
図版06 造構写真 1. 溝 S D01全景 (東)
2. 溝 S D07遺物出土状態 (南)
3. 掘立柱建物址 S B01雨落ち溝 a d 06遺物出土状態 (北東)
図版07 造構写真 1. 掘立柱建物址 S B01 P3~4遺物出土状態 (南東)
2. 横址 S A01~P1遺物出土状態 (西)
3. ピット S P04遺物出土状態 (東)
図版08 遺物写真 1. 須恵器
2. 土師器
3. 須恵器

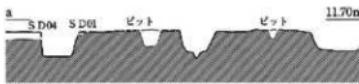
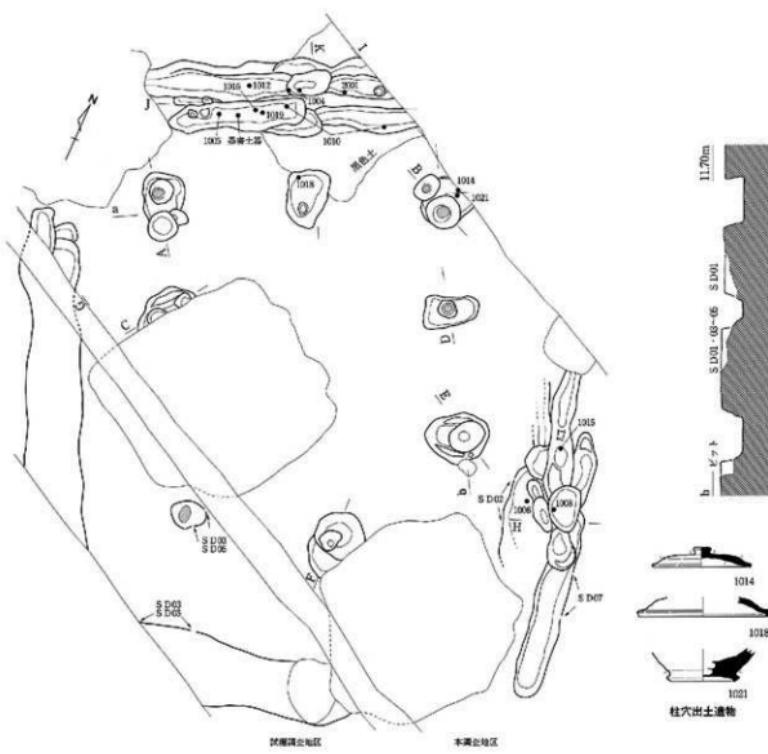
岡地区全體図 編尺 1/200



図面〇一 遺構実測図



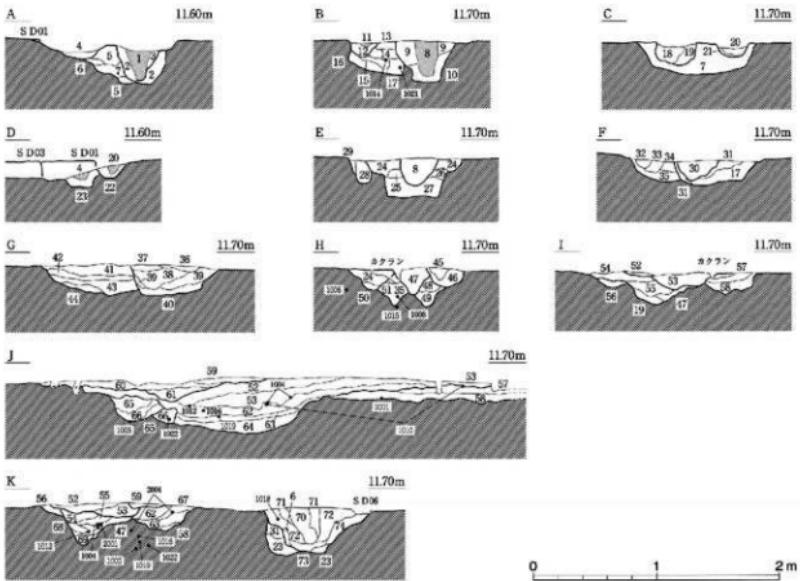
北側雨落ち溝出土遺物



30



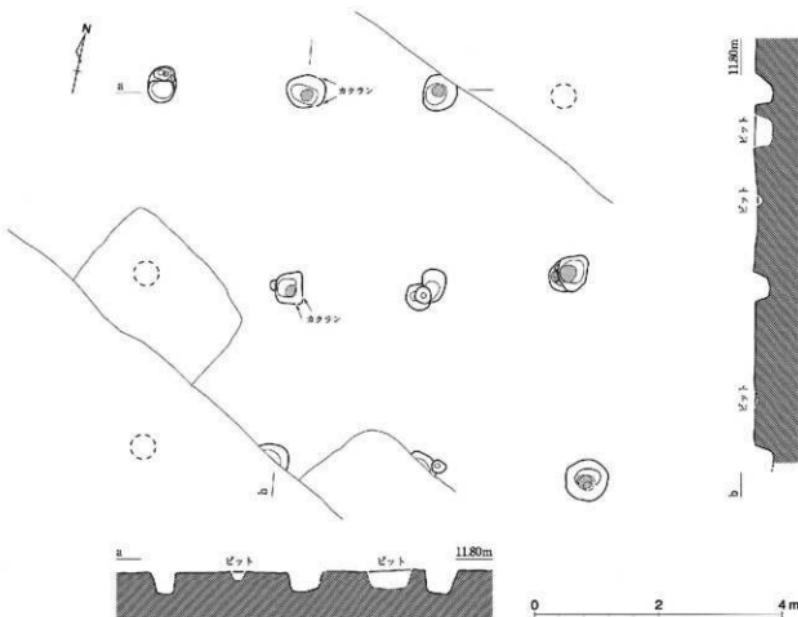
掘立柱建物址 S B01実測図



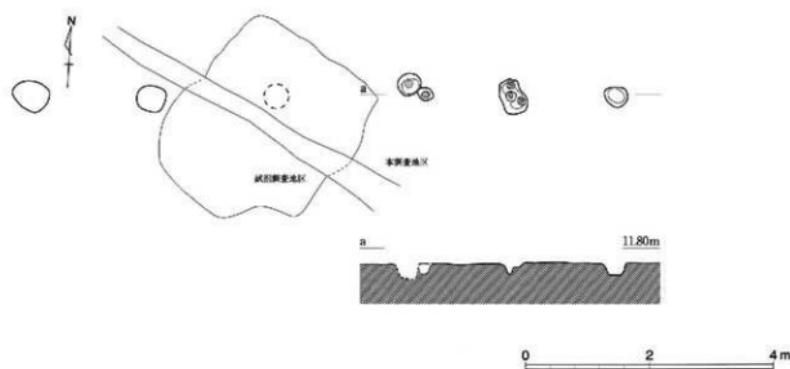
- | | | | |
|------------|---------------------------|------------|------------------------------------|
| 1. 黒褐色質土 | V層・V層小ブロック少量、炭化鉄少量 | 39. 黒色土 | V層小ブロック、炭化鉄、黄褐色土小ブロック少量 |
| 2. 黒褐色質土 | V層少量 | 40. 黒褐色土 | V層多量、V層少量 |
| 3. 黒褐色質土 | N層少量 | 41. 黒褐色土 | 炭褐色土小ブロック多量、小石少量 |
| 4. 黒褐色質土 | N層多量 | 42. 黑褐色土 | 炭褐色土・V層の性質推移がみられる |
| 5. 黒褐色質土 | V層少ブロック少量 | 43. 黑褐色土 | N層・V層小ブロック多量、炭化鉄少量 |
| 6. V層ブロック | | 44. 黑褐色土 | V層多量、炭化鉄少量 |
| 7. 黑褐色質土 | V層小ブロック多量 | 45. 黑褐色土 | V層少量、V層多量 |
| 8. 床褐色土 | V層小ブロック多量、炭化鉄少量 | 46. 黑褐色土 | V層多量、V層少量、炭化鉄無量 |
| 9. 灰褐色土 | V層少量、V層小ブロック少量 | 47. 黑褐色土 | V層・V層小ブロック多量 |
| 10. 黑褐色土体 | 灰褐色土少量 | 48. 黑褐色粘質土 | V層小ブロック多量 |
| 11. 黑褐色質土 | 炭化鉄少量 | 49. 黑褐色粘質土 | V層多量、V層小ブロック多量 |
| 12. 黑褐色質土 | V層多量 | 50. V層土体 | V層小ブロック少量、黄褐色土小ブロック少量 |
| 13. 黑褐色土 | V層少量 | 51. 灰褐色土 | V層・V層少量 |
| 14. 黑褐色土 | V層多量、V層少量 | 52. 河褐色土 | V層・黄褐色土小ブロック少量、V層小ブロック多量
灰褐色土少量 |
| 15. 黑褐色土 | V層少量、炭化鉄版面 | 53. 河土 | V層多量、V層・黄褐色土小ブロック少量、炭化鉄少量 |
| 16. V層土体 | 黑色土・V層小ブロック少量 | 54. 黑褐色土 | V層小ブロック多量、炭化鉄少量 |
| 17. 黑褐色土 | V層少量 | 55. 黑褐色土 | V層・V層小ブロック少量 |
| 18. 黑褐色土 | V層多量 | 56. 細粒褐色質土 | V層小ブロック多量 |
| 19. V層土体 | 黑褐色土・V層小ブロック少量 | 57. V層土体 | 塊状小ブロック少量、炭化鉄多量 |
| 20. 黑褐色土 | V層少量 | 58. 細粒褐色質土 | V層・黃褐色土小ブロック多量 |
| 21. V層土体 | 黑褐色土少量 | 59. 黑褐色質土 | V層・V層少量 |
| 22. V層土体 | 黑褐色土少量 | 60. 河土 | V層小ブロック少量、炭化鉄少量 |
| 23. V層土体 | 黑色土・V層小ブロック少量 | 61. 河土 | V層・V層多量、V層小ブロック少量 |
| 24. 灰褐色土 | V層少量 | 62. V層土体 | 黄褐色土小ブロック少量、炭化鉄少量 |
| 25. 灰褐色土 | V層多量 | 63. 黑褐色粘質土 | V層・黄褐色土小ブロック多量、炭化鉄少量 |
| 26. V層土体 | 灰褐色土小ブロック少量 | 64. 黑褐色粘質土 | V層多量、V層小ブロック少量 |
| 27. 灰褐色土 | N層ブロック少量 | 65. 黑褐色土 | V層・黄褐色土小ブロック少量 |
| 28. 黑褐色土 | V層・V層少量 | 66. V層土体 | 黑褐色土・V層少量 |
| 29. 黑褐色土 | V層多量 | 67. 黑褐色土 | V層少量 |
| 30. 黑褐色土 | V層多量、炭化鉄少量 | 68. 黑褐色粘質土 | V層少量、V層多量 |
| 31. 黑褐色土 | V層小ブロック多量 | 69. 黑褐色粘質土 | V層小ブロック少量 |
| 32. 黑褐色粘質土 | V層少量 | 70. V層土体 | 黑褐色土少量 |
| 33. 黑褐色粘質土 | V層多量 | 71. 黑褐色土 | V層小ブロック多量 |
| 34. 黑褐色粘質土 | V層小ブロック多量 | 72. 黑褐色土 | V層小ブロック少量、炭化鉄少量 |
| 35. N層土体 | 黑褐色土小ブロック少量 | 73. 黑褐色土 | V層多量 |
| 36. 灰褐色土 | V層小ブロック少量、綠化 | 74. V層土体 | 黒褐色土少量 |
| 37. 黑褐色土 | 炭化鉄少量・V層小ブロック少量 | | |
| 38. 黑褐色土 | V層小ブロック多量、炭化鉄、黄褐色土小ブロック少量 | | |

獨立柱建物址 S B01上層断面図

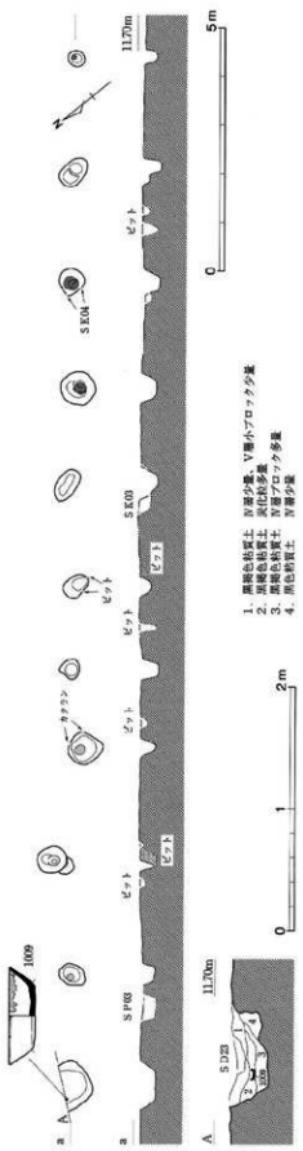
図面〇四 遺構実測図



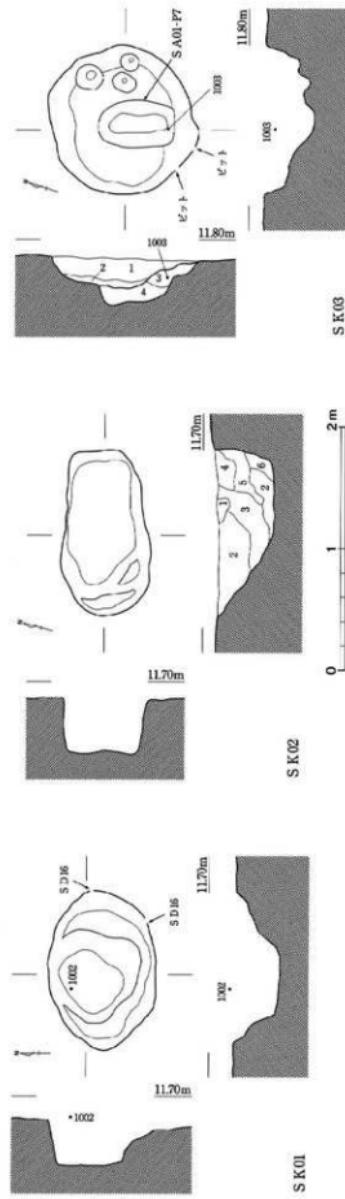
1. 掘立柱遺物址 S B02実測図 緯尺 1/80



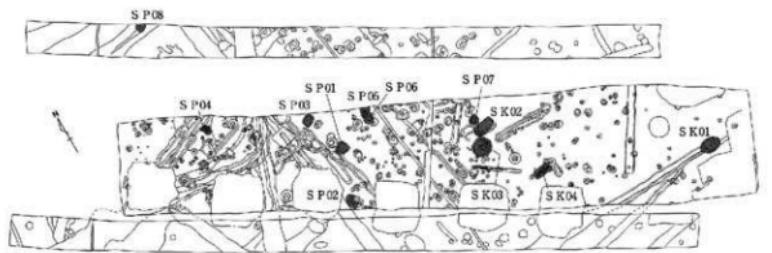
2. 横址 S A02実測図 緯尺 1/80



1. 檔號 S A01 實測圖 編號 1 / 100、1 / 40

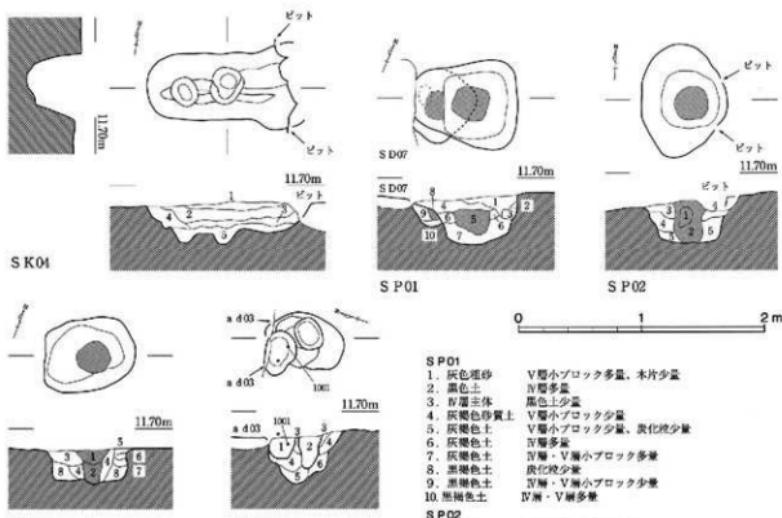


2. 土坑測量圖〔1〕：SK01~SK03 縮尺1/40



1. 土坑・ピット位置図 縮尺 1/300

0 5 10m



0 1 2 m

S P03

S P04

S K02

1. 黒色土 V層小ブロック少量
2. 黒色土 V層・V層小ブロック多量、炭化鉱少量
3. 黒色土 V層・V層ブロック多量
4. 黒色土 V層ブロック多量
5. 黒色粘土質 V層小ブロック多量
6. V層ブロック V層少量

S K03

1. 黒色土 V層小ブロック多量、炭化鉱少量
2. IV層土体 黒色土小ブロック少量
3. IV層土体 黒色土多量 (S A01-P7)
4. IV層土体 黒色土ブロック多量 (S A01-P7)

S K04

1. IV層土体 黒色土小ブロック多量
2. 黒色土 V層小ブロック少量、炭化鉱少量
3. 黒色土 V層ブロック多量、炭化鉱多量
4. 黒色土 V層小ブロック多量、炭化鉱少量
5. IV層二次堆積 V層小ブロック少量

S P01

1. 灰褐色土 V層小ブロック多量、木片少量
2. 黒色土 V層多量
3. IV層土体 黑色土少量
4. 灰褐色土質 V層小ブロック少量
5. 灰褐色土 V層小ブロック少量、炭化鉱少量
6. 灰褐色土 V層多量
7. 灰褐色土 V層・V層小ブロック多量
8. 黑褐色土 炭化鉱少量
9. 黑褐色土 V層・V層小ブロック少量
10. 黑褐色土 IV層・V層多量

S P02

1. 黒色土 V層多量、炭化鉱少量
2. 黒色土 V層多量、炭化鉱多量
3. 黑褐色土 V層少量、V層小ブロック少量
4. 黑褐色土 V層小ブロック少量、V層ブロック多量
5. 黑褐色土 V層少量、炭化鉱少量

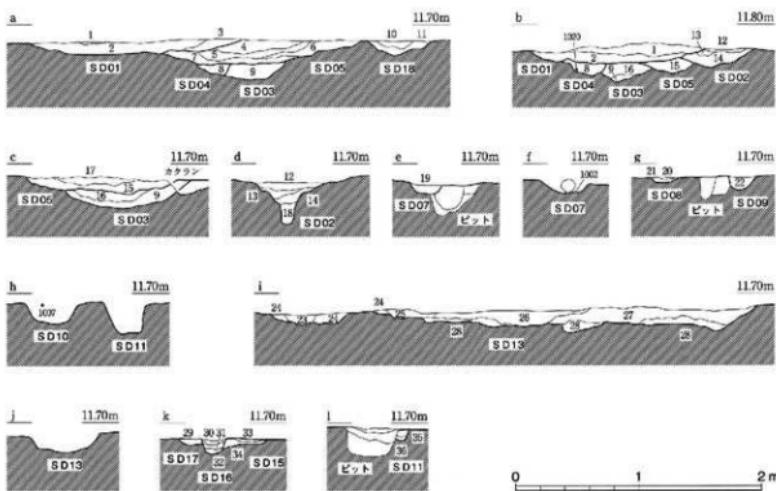
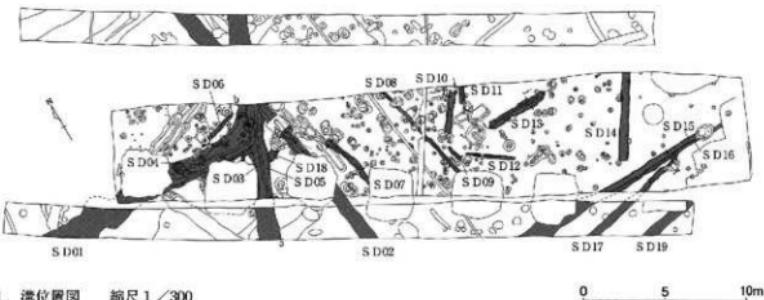
S P03

1. 黒色粘土質 V層小ブロック多量、炭化鉱少量
2. 灰褐色粘土質 IV層多量、炭化鉱少量
3. 黑褐色土 V層多量、V層少量
4. 黑褐色土 V層多量、V層少量、炭化鉱少量
5. 黑褐色粘土質 IV層少量
6. V層ブロック
7. 灰褐色土 V層・V層多量
8. V層土体 黑褐色土小ブロック少量

S P04

1. 黒色粘土質 IV層多量、炭化鉱少量
2. 黑褐色粘土質 IV層少量、炭化鉱少量
3. 黑褐色土 V層小ブロック少量
4. 黑色土 V層小ブロック多量、V層小ブロック少量
5. 黑色粘土質 IV層少量

2. 土坑・ピット実測図 [2] : SK04、S P01~04 縮尺 1/40

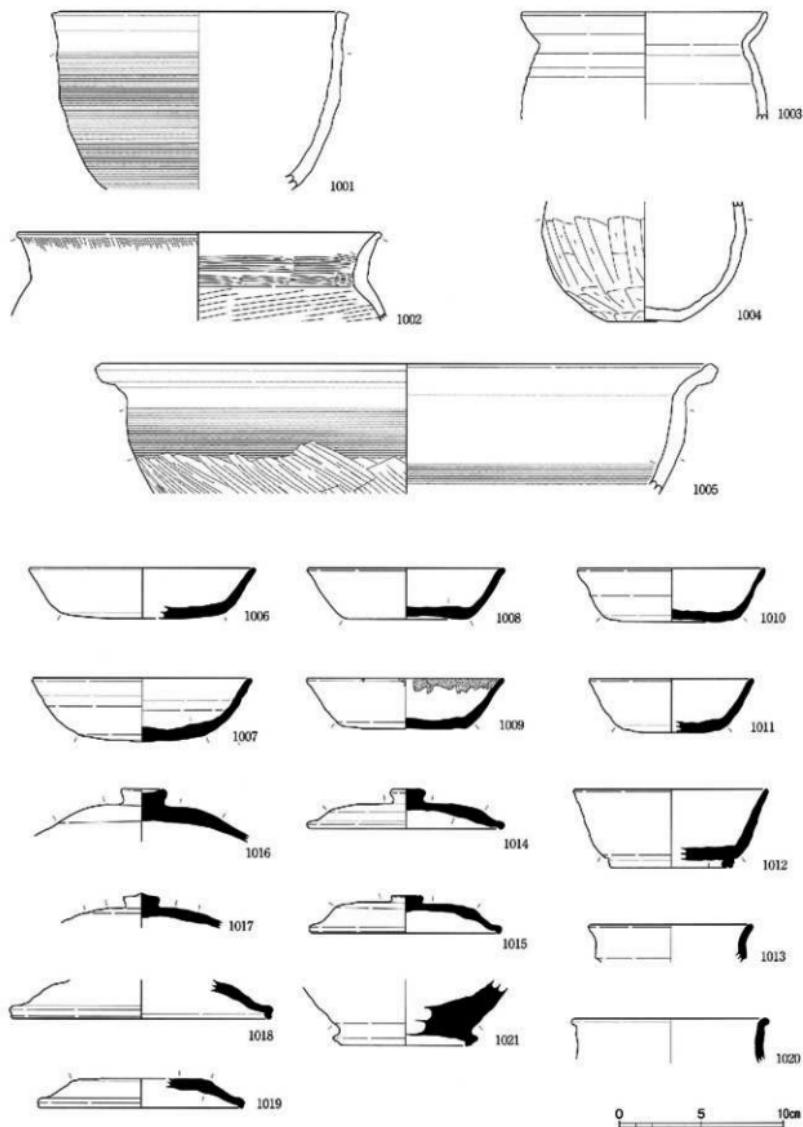


1. 黒褐色砂質土
2. 灰色粘質土
3. 灰色粘質土
4. 黑褐色粘質土
5. 黑褐色粘質土
6. 脊綱二次堆積
7. 黑褐色粘質土
8. 底層色粘質土
9. 脊綱二次堆積
10. 黑褐色土
11. 黑褐色土
12. 黑褐色粘質土
13. 沢色土
14. IV層二次堆積
15. 黑褐色土
16. 黑褐色土
17. 黑褐色土
18. 細褐色粘質土
19. 黑褐色粘質土
20. 黑褐色粘質土

21. IV層二次堆積
 22. 黑褐色粘質土
 23. 黑褐色土
 24. 黑褐色土
 25. IV層主体
 26. 黑褐色土
 27. 黑褐色土
 28. IV層主体
 29. 黑褐色土
 30. 黑褐色粘質土
 31. IV層二次堆積
 32. IV層二次堆積
 33. 黑褐色粘質土
 34. IV層二次堆積
 35. 黑褐色粘質土
 36. IV層二次堆積
- 黒褐色土少量
灰化粘少量
IV層少量
IV層多量
黒褐色土少量
黒褐色土少量
V層小ブロック多量
V層小ブロック少量、硬質
黒褐色土少ブロック少量
IV層多量
IV層多量
黒褐色土少ブロック少量
IV層少量
黒褐色土少量
黒褐色土少量
黒褐色土少量
黒褐色土少量

2. 清土層断面図 緯尺 1/40

図面〇八 遺物実測図
土器類



土器器：1001～1005 素恵器：1006～1021

縮尺1／3



1. 調査地区全景（西）



2. 調査地区全景（南東）



1. 挖立柱建物址 S B01全景（南東）



2. 挖立柱建物址 S B01全景（北東）



1. 挖立柱建物址 S B01
雨落ち溝 a d 03・04
検出状態（北東）



2. 挖立柱建物址 S B01
雨落ち溝 a d 03・04
遺物出土状態（北東）



3. 挖立柱建物址 S B01
雨落ち溝 a d 03・04
全景（北東）



1. 調査地区中央部全景（南）



2. 調査地区東部全景（東）





1. 溝 S D01
全景（東）



2. 溝 S D07
遺物出土状態（南）



3. 捕立柱建物址 S B01
雨落ち溝 a d 06
遺物出土状態（北東）



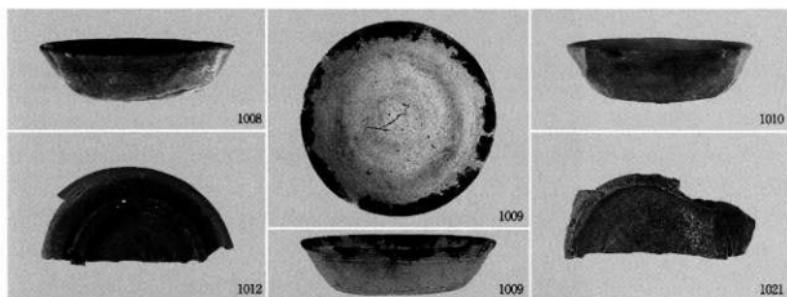
1. 捩立柱建物址 S B01
P3-4
遺物出土状態（南東）



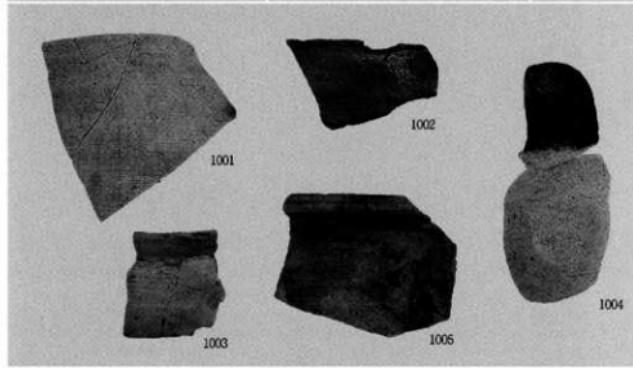
2. 横址 S A01-P1
遺物出土状態（西）



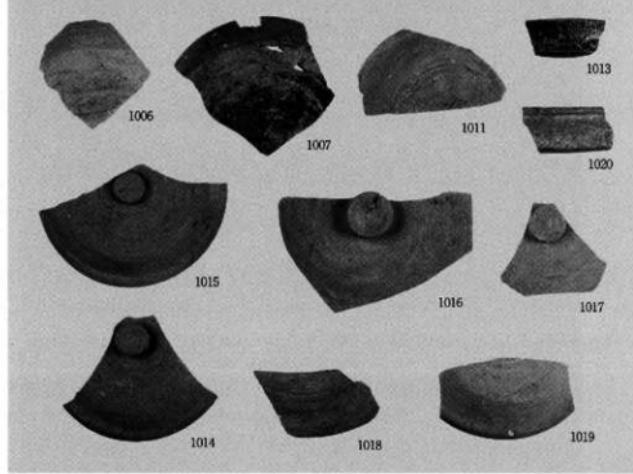
3. ピット S P04
遺物出土状態（東）



1. 須恵器



2. 土師器



3. 須恵器

高岡市埋蔵文化財調査報告第16冊

下佐野遺跡調査報告

2007年11月30日

発行者 高岡市教育委員会

富山県高岡市広小路7番50号

印刷所 キクラ印刷株式会社

富山県高岡市種蒔48-2
